

トマト青かび病の発生について

1 病原菌名 *Penicillium oxalicum* (Currie et Thom)

2 発生作物名 トマト

3 発生経過

- (1) 令和7（2025）年10月、栃木県内の施設栽培のトマト（品種：かれん）において、青緑色のかびが表生し、茎が激しく腐敗する病害が確認された。罹病茎から菌を分離し、ITS領域の塩基配列を解析したところ、トマト青かび病の病原である *Penicillium oxalicum* と一致した。
- (2) 本病は、平成18（2006）年に千葉県で発生が確認されている。

4 病徴

- (1) 芽かきや葉かき後の傷口から褐変・枯死が始まり、その後、症状は主茎に進展する。主茎に暗褐色の病斑（写真1）が形成され、病斑上には青緑色の分生子（写真3）が密生し、腐敗する。
- (2) 病斑が拡大すると内部組織まで褐変し、植物体は萎れやすくなる。
- (3) 罹病茎近くの葉にはクロロシス（写真2）が生じ、黄白色のかすれ状斑点が認められる。

5 防除対策

- (1) 施設内の湿度管理と換気を徹底し、過湿を避ける。
- (2) 発生ほ場で使用した各種資材は、資材消毒剤等での消毒を徹底する。
- (3) 発病株は見つけしだい抜き取り、肥料袋等に詰めて空気を排出し、口をしっかりと閉じる。その後、日当たりのよい野外に放置し、嫌氣的発酵処理後に処分する。
- (4) 令和7（2025）年12月10日現在、本病に対して登録のある薬剤はないため、上記の耕種的防除を徹底する。

6 引用文献

小板橋（2011）：微探収報 24，71-74.



写真1 茎に暗褐色の病斑



写真2 葉にクロロシス状の斑点

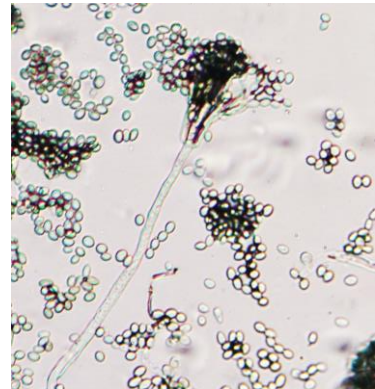


写真3 分生子

詳細は、環境技術指導部防除課（TEL028-665-1244）までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、「[栃木県農政部 X](#)」でご覧いただけます。

